



小学生、中学生、高校生と
「ご家族の方」へ

参考書は、
自学・自習の力を
育てます

参考書・問題集の選び方のコツ

目的に合ったものを選ぶ

参考書や問題集は、何のために使うのかをはっきり決めてから選ぶようにすることが大切です。

使用目的が次の①～⑤のようなら、その目的によって選ぶ参考書や問題集はちがってくるので注意が必要です。

- ①学校の授業の予習・復習のため
- ②学校のテスト（小学校）、定期テスト（中学校）対策のため
- ③塾が学習の補助教材として
- ④中学受験・高校受験の準備のため
- ⑤検定資格取得のため

たとえば、学校の授業の予習・復習が目的なら、教科書準拠の参考書や問題集を選ぶとよいでしょう。また、受験準備が目的なら、受験直前なのか、まだ日数がかかなりあるのかによって使うものもちがってきます。

お子さんの実力をよく知っている学校の先生や塾の先生がすすめる本があれば、それを参考にして選ぶのもよいでしょう。目的に合わないものを選ぶことがないように気をつけてください。

学力に応じたものを選ぶ

令和2年度に外国語教育（英語教育）が必修化され、コミュニケーションが重視されるとともに、中学校英語、高校英語ともに、文法内容・語彙が以前に比べて難しくなりました。そのため、まず学校の授業を確実に身につけるための参考書・問題集に取り組むことをおすすめします。

また、受験準備の参考書や問題集は、それぞれの本によってレベルがちがいます。それは、問題のレベルや解説のくわしさなどに表れています。

たとえば、基本をしっかりやろうとするお子さんが、応用問題や難問中心のものを使ってもダメですね。

反対に、かなり学力があるのに基本問題ばかり扱っている本を使っても効果が上がりません。

目的に合った本を選ぶだけでなく、その本の内容に必ず目を通し、学力に合ったものを選ぶようにしてください。



小学生・中学生の自学・自習を応援!

この時期には、
『こんな参考書』が役立つ!

小学校入学時～小学6年生

小学校入学時は、お子さんが興味をもって学習できる教科書準拠的なドリルがよいでしょう。学校の授業に積極的に参加し、家庭学習の習慣が身につくような観点で選んであげてください。

2年～6年では、学年ごとになった参考書と問題集を各1冊ずつ用意しておけば十分です。

できれば、夏休みや冬休みには、その学期や学年の学習範囲を総復習できるドリルで理解度をチェックするとよいでしょう。

また、令和2年度に3年生～6年生を対象に外国語教育（英語教育）が必修化されました。教科書を使ったコミュニケーション重視の授業が行われるため、教科書準拠の教材や英語の音声が入る教材がよいでしょう。



中学受験準備は...

中学受験では教科書レベルを超えた内容が出題されることがあります。だから、参考書や問題集も、過去の入試出題内容を分析し、整理したものが重要です。

志望校やお子さんの学力を考えて選ぶようにしましょう。

辞書的役割を持つ総合参考書と、実戦力を身につけるための入試問題中心の問題集をそろえるのがベターです。

1冊の中に、この2つの要素を盛り込んだ参考書でもよいでしょう。



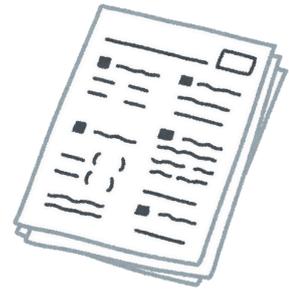
中学校入学時～中学3年生

中学の英語について、小学校英語の教科化により、それまで中学校で学んでいた内容の一部が小学校に、高校で学んでいた内容の一部が中学校に移行され、以前に比べて難しくなりました。そのため、英和・和英の辞書はもちろん、文法の解説が充実した参考書や問題集に取り組むのがよいでしょう。

また、英語・数学・国語・理科は、学年ごとの参考書と問題集があると便利です。社会は、地理・歴史などの分野別の参考書がよいでしょう。

中学の参考書・問題集選びで注意したいのは、定期テスト対策に役立つものを選ぶということです。

テストに出される要点が見やすくまとめられ、予想問題や必出問題で問題練習ができるものがよいでしょう。苦手教科がある人は基本問題中心のうすめの問題集がよいでしょう。



公立高校受験準備は...

公立高校入試対策用の参考書・問題集は数多くあります。

選ぶポイントは、中学3年間で学習した内容が比較的短時間にチェックできるかどうかです。アヤフヤな箇所や理解できていない箇所を見つけ、補強するわけです。

弱点分野を克服するために、分野別の問題集を利用するのもよいでしょう。

入試では、定期テストなどと異なった出題形式や設問が見られます。自分の都道府県の過去の入試問題に当たっておくと、入試本番でとまどうこともありません。これには、入試対策問題集や都道府県別入試問題集が役立ちます。

国語の課題作文、理科・社会の記述問題など、教科固有の出題形式に対応できるようにしておくことも大切です。

国・私立高校受験準備は...

中学入試ほどではありませんが、国立・私立高校の入試も、教科書レベルを超えた内容が少なくありません。だから、国・私立高校入試対策用の参考書・問題集が必要です。

通塾しているお子さんには、塾で使っている教材と似たパターンのものや、塾でわからなくなってしまった箇所がわかるようなものを目安にされるとよいでしょう。

また、志望校や学力にあった参考書・問題集を選ぶことも、中学入試準備と同様に大事なことです。

入試で増加している作文や面接などにも、きちんと対応できるように「ノウハウ本」や「マニュアル本」をそろえておけば、必ず役立ちます。

入試情報や学校の教育内容などは市販の「受験案内」で調べられるので参考にするとよいでしょう。